

日本人に、いつの日か
バンドウーラを奏でてもらいたい

【第52回】
バンドウーラ奏者

カテリーナさん

バンドウーラという楽器をご存じだろうか？50～60本の弦からなるウクライナの民族楽器で、その起源は12世紀にさかのぼる。多くの日本人たちに、バンドウーラのことを、故郷ウクライナのことを知ってほしいという思いを込めて、カテリーナさんはバンドウーラを奏で、歌っている。

繊細かつノスタルジック——数多くの弦を持つバンドゥーラならではの独特の音色に、澄んだ歌声が重なりあう。カテリーナさんは、日本を拠点に活動するウクライナ出身のバンドゥーラ奏者だ。

「バンドゥーラを演奏することで、ウクライナの伝統を伝えていきたいのです。それに、弦が多く音楽性に幅広さがあるバンドゥーラは、他のジャンルの音楽や楽器とも相性がよいので、その奥深さをまだまだ研究していきたい。今の私にとって、バンドゥーラはもはや身体の一部です」と、カテリーナさんはバンドゥーラの魅力を話す。

「コンサートで、ウクライナの曲をウクライナ語で歌うとき、言葉の意味は分からないはずなのに、涙を流しながら聴いてくださる人がいるのです。歌に込めたわたしの気持ちが伝わっているのだと感じます」

聴きに来てくれた人の心に響き、涙させるような演奏をすること、それが彼女のアーティストとしてのいまの大きな目標となっている。

* * *

カテリーナさんは幼いころ、民族楽器のバンドゥーラよりもピアノを習いたいと思っていた。しかし、家族や先生に、「バンドゥーラを学ぶと、いっしょにピアノや声楽も学ぶことができる」と勧められバンドゥーラを選んだ。小学校に通うかわら音楽学校で7年、さらに専門学校で4年、演奏技術や音楽理論、声楽などを本格的に学んだ。学校以外でも、ウクライナの民族音楽団「チェルボナカーリーナ」に所属し海外公演も経験する。まさに、バンドゥーラに明け暮れた少女時代だった。

チェルボナカーリーナの公演で10歳の時に初めて日本を訪れ、その後も幾度か日本を訪れる中で、カテリーナさんはいつか日本でバンドゥーラ奏者として活動したいという思いを抱くようになる。ドイツやスイスなどでも公演経験があったが、日本の聴衆の反応、音楽に向き合う姿勢に惹かれたからだ。

そして、その夢を実現させたのが2008年。音楽

の拠点を東京に移して音楽活動をスタートさせた。

「当時、いろいろなレコード会社や音楽プロダクションに音源を送りましたが、結局どこからも返事がありませんでした。わたしの演奏や歌に魅力がないのではと落ち込むこともありましたが、そんなとき夫から『君の音楽に魅力がないのではなくて、日本ではバンドゥーラが珍しすぎて、どんなふうにも聴けばよいのか分からないんだよ』と言われ気が付きました。まずは、もっとバンドゥーラやウクライナのことを知ってもらうことから始めようと思ったのです」

そこで活用したのが、インターネットだ。バンドゥーラの音源をYouTubeにアップしたり、コンサートで演奏している写真を公開したり、バンドゥーラと自分自身についての情報を積極的に発信するようになる。それがきっかけで少しずつコンサートを訪れる人も増え、テレビ出演やマスコミの取材も多くなっていった。

* * *

コンサートでは、ウクライナの曲はもちろんのこと、日本の民謡やポップス、クラシックなど幅広いジャンルの音楽を演奏する。また、ソロでのコンサートだけでなく、バイオリン、チェロ、ギター、琴、フルート、パーカッションなど他の楽器と共演することにも積極的だ。そうすることが、幅広い音楽性を持つバンドゥーラの魅力を、より多くの人に伝えられるからだ。

「日本中にバンドゥーラの素晴らしさを知ってもらい、いつか日本の皆さんにバンドゥーラを弾いてもらえるようになることが、わたしの夢。ウクライナでは、1本の本を切り出して職人さんが手作りでバンドゥーラを造っていますが、高齢化で担い手が少なくなっています。楽器の製造技術が高い日本のメーカーに、ぜひバンドゥーラを造ってもらいたいですね」

日本で音楽活動をしたいという彼女の夢は、日本にバンドゥーラを、ウクライナの文化を広めたいという、ひとまわり大きな夢へと膨らんでいる。



バンドゥーラの起源は12世紀ごろ。その後15～16世紀にはポーランドの王に、18～19世紀はロシアの宮廷に仕える専属の奏者によって演奏された。また、コサック時代を中心に、目の不自由な人によって演奏されていたという歴史を持つ。「もしかすると、日本の琵琶法師と音楽的ルーツは同じなのかもしれません。楽器の形も似ていますね」と、カテリーナさん。

カテリーナ

幼少期よりバンドゥーラに触れ、民族音楽団「チェルボナカーリーナ」で活動する中で、10歳の時に日本公演のため初来日。2008年、音楽活動の拠点を東京に移す。現在は日本で活動する数少ないバンドゥーリストの一人として、国内ツアーの開催やライブハウスのパフォーマンスなど、精力的な活動を行っている。

<http://www.kateryna-music.jp/>